

2017
Vol.18

九大別府病院 だより

Kyushu University
Beppu Hospital

整形外科診療科長就任挨拶	2
第3回東部医療圏地域医療連携セミナー	3
新任医師の紹介	4～5
「おんけん同門会」「あの頃と今」	6～7
～九州大学名誉教授 元皮膚泌尿器科 中溝 慶生先生～	
「紹介元の医療機関のご紹介」	8～9
～藤吉乳腺クリニック～	

病院の理念・基本方針

理 念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

基本方針

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ◆地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進 | ◆プライマリ・ケア診療の充実 |
| ◆全人的医療が可能な医療人の養成 | ◆専門医療の高度化を目指した医学研究の推進 |
| ◆国際化の推進 | ◆生活の質が向上できる医療の提供 |

患者さんの権利と責務

私どもは患者さんの権利を守り、病院の理念に基づいた、公平で良質な医療を提供することを目指します。



九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital



診療科長就任のご挨拶

整形外科 播広谷 勝三

平成29年4月1日付けで、九州大学病院別府病院整形外科診療科長を拝命いたしました播広谷勝三(はりまやかつみ)でございます。九州大学病院整形外科から参りました。この度、九州大学病院別府病院の一員に加えていただき誠にありがとうございます。

歴史と伝統のある九州大学病院別府病院において、整形外科は2011年に設立されたまだ新しい科であります。最初の診療科長であった土井俊郎先生とは大学からの同級生で、九州大学整形外科に入局した後に共に大学病院で脊椎・脊髄疾患に関する研鑽を積んだ仲であります。その土井先生が立ち上げ、軌道に乗せた当整形外科を引き継ぐことになり、光栄であるとともにその重責も感じております。

わが国は人類がこれまで経験したことのないような超高齢化社会を迎えようとしています。加齢とともに様々な脊椎・脊髄疾患を生じるため、その早期診断・治療は患者さん方のQOL改善のみならず健康寿命の延伸に寄与しうる重要な分野と考えております。開設当初から当科は脊椎・脊髄疾患に特化した診療を行って参りました。今後もこれまでの経験と実績を踏まえて、主に変性疾患を中心に早期診断、保存療法から手術、リハビリテーションに至るまで系統だった診療を展開していきたいと考えております。さらに、手術手技をとってみましても、内視鏡や顕微鏡を用いた小侵襲手術から、脊椎固定術に至るまで幅広い手術が行われています。九州大学病院で培った経験をもとに、ひとりでも多くの患者さんやそのご家族のお役に立てればと考えております。

ご高齢の患者さん方を診療していく上では、内科的疾患を始めとする様々な既往症や併存疾患への配慮も重要となってきます。そこでは別府病院の内科、外科、放射線科、麻酔科、慢性疾患診療部、検査室等の皆様、さらには近隣の医療機関の先生方のご協力も必要となってまいります。皆様方に支えていただきながら、近隣の住民の皆様、医療機関の先生方のお役に立てるよう精一杯頑張る所存でございます。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「第3回東部医療圏-地域医療連携セミナー」を開催しました。



平成29年1月24日(火)に、第3回東部医療圏 地域医療連携セミナーを開催いたしました。当院病院長の堀内教授より開催の挨拶の後、一般演題、特別講演を行いました。

前半は、当院外科教授の三森功士先生の司会で、当院外科より、一般講演①「乳癌術後リンパ節転移再発が疑われた副乳癌の症例」(林直樹医師)、②「術前化学放射線療法を施行した後に臍頭十二指腸切除術を完遂した高齢臍頭部癌の1切除例」(黒田陽介医師)、③「腹腔鏡下超低位前方切除術を施行した下部直腸癌の1例」(江口英利医師)を行いました。

後半は、当院内科教授の堀内孝彦先生の司会で、特別講演①「フレイルな高齢者への抗凝固療法」(当院内科 樋口義洋医師)、②「術中迅速診断の現状と展望」(当院検査部 東保太郎医師)を行いました。

参加された先生方より、「症例報告は、すべて勉強になりました」「特別講演のフレイル患者の話、術中迅速の新しい方法の紹介について、普段接しない領域なので、大変勉強になりました」

「各消化器癌のup-to-date(診断・治療・予後)を、常に紹介して頂きたい」等のご意見をアンケートで伺うことができ、大変感謝申し上げます。今後のセミナーに生かして参ります。

今回は、ホテル白菊にて、平成29年5月29日(月)に開催予定です。これからも、この会をより良い医療に還元しうるよう、また先生方の有意義な勉強会となりますよう努力して参ります。コンサルト症例などありましたら、当日の持ち込みも歓迎いたします。また日本医師会生涯教育単位も取得可能でございますので、多くの先生方に参加して頂きますようお願い申し上げます。



内科



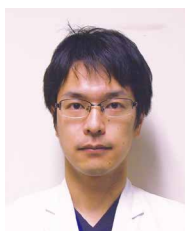
井林 雄太

平成29年4月より内科に赴任して参りました井林雄太（いばやしゆうた）と申します。当院では糖尿病内科を担当させていただきます。1型及び2型糖尿病、ステロイド糖尿病、膵性糖尿病及び内分泌疾患による2次性糖尿病などの治療を行います。食事療法、運動療法（入院中のリハビリ含む）で生活習慣の改善を促し、経口血糖降下薬及びインスリン療法、GLP1製剤を用いた薬物治療を行います。九州大学病院で得た臨床経験を基に、患者さんはもちろんのこと、御紹介の先生方や他科の先生方のサポートができるように精一杯頑張りますので宜しくお願い申し上げます。



吉村 恵美

平成29年4月より免疫・血液・代謝内科に赴任して参りました、吉村恵美（よしむらえみ）と申します。医師3年目で、去年までは九州大学病院で研修を行っておりました。糖尿病を中心として内分泌・代謝疾患の診療を行っていきます。まだまだ不慣れなことが多くご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、皆様のお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。



吉村 元樹

平成29年4月より九州大学病院別府病院の内科に赴任してまいりました吉村元樹（よしむらもとぎ）と申します。生まれは鹿児島県の徳之島で、佐賀大学を卒業し、昨年まで九州大学病院で研修医として研修をしておりました。専門の道に進み始めたばかりでまだまだ学ばなければならないことが多く、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、精一杯頑張らせていただきますのでよろしくお願いいたします。

整形外科



飯田 圭一郎

平成29年4月より赴任して参りました飯田圭一郎（いいだけいいちろう）と申します。昨年は九州大学病院に勤務し、脊椎疾患を担当しておりました。受診してよかったと思われる診療を心がけていきたいと思ひます。少しでも患者さん及びスタッフの皆さんのお役にたてるよう頑張ります。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。



甲斐 一広

平成29年4月より赴任して参りました医師5年目、整形外科3年目の甲斐一広（かいかずひろ）と申します。昨年までは九州大学病院救命救急センターで従事しておりました。まだ医師としての経験は浅いですが、地域の皆様に少しでも貢献できるよう頑張りたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

外科



清水 大

平成29年4月より、外科医員として赴任いたしました清水大(しみずだい)と申します。平成16年に琉球大学医学部を卒業後、名古屋大学消化器外科学に入局し臨床および研究に携わってきました。この度、研究を主として九大別府病院に籍を置かせていただく事となりました。臨床に関しても、病棟業務で患者様と関わらせていただく機会があるかと思えます。皆様のお役に少しでも立てるように頑張っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

放射線科



松本 圭司

平成29年4月より九州大学病院別府病院放射線科に赴任いたしました松本圭司(まつもとけいじ)と申します。平成17年に九州大学医学部を卒業し、九州大学病院、九州がんセンターなどで高精度放射線治療、小線源治療など、多様な放射線治療の経験を積んできました。また千葉市の放射線医学総合研究所で1年間重粒子線治療について学び、前任地の九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツ)で多くの症例の重粒子線治療経験を積みました。当院でフットワークのよい放射線治療を提供し、また多岐にわたる放射線治療の相談窓口としてもお役に立てればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

麻酔科



添田 祐治

平成29年4月より九州大学病院別府病院麻酔科に赴任いたしました添田祐治(そえだゆうじ)と申します。平成22年に九州大学を卒業後、九州大学麻酔科・蘇生科に入局しました。昨年までは大学病院で臨床に携わってまいりました。本年からは麻酔の臨床とともに大学院生として研究もさせていただく機会を得ることができ大変感謝しております。初心を忘れずに頑張っております。どうぞよろしくお願いいたします。

慢性疾患診療部



得能 智武

平成29年4月より九州大学病院別府病院慢性疾患診療部に赴任致しました得能智武(とくのうともたけ)と申します。平成9年に九州大学医学部を卒業後、九州大学循環器内科に入局致しました。これまで、心血管疾患に関する基礎研究や臨床研究を行ってききましたが、九州大学病院、松山赤十字病院、佐賀県立病院好生館において循環器専門医として心臓カテーテル治療や心不全治療なども担当させて頂きました。大分は初めての勤務となりますが、心疾患を中心に慢性的な内科疾患治療を主に担当することになると思います。慢性疾患診療部では、リハビリテーションも担当致しますので、よろしくお願い申し上げます。

「心の故郷へ感謝！」

九州大学名誉教授
(皮膚泌尿器科)

中 溝 慶 生



私は昭和30年夏に生まれて初めて別府を訪れ温研に赴任しました。驚いたことに皮膚泌尿器部門は独立してなく外科に属し診療定員は2名でした。

昭和31年10月に独立し、伊藤嘉夫先生が初代教授として赴任されたが、定員は2名のままだった。漸次定員も増え助教授に昇進しましたが、大学で研究生活を送るような優秀な頭脳でもないし、もっと臨床を勉強しようと思い山口赤十字病院に赴任した。

昭和40年に交通事故で重傷だったが、かなり

快復した所でリハビリの為に温研に入院した。その後、伊藤教授や恩師樋口健太郎教授のすすめもあって、昭和40年1月に再び助教授として赴任した。

昭和42年教授に昇進しましたが、その頃より学園紛争が始まり、所長選考基準が変わり、助手以上の全教官の選挙になり、所長にされ呆然としました。それ以降6期12年続き、生体防御医学研究所になってからも更に病院長を2期4年間しました。16年間も管理職を続けるような馬鹿はもう出ないと思います。その間を含めて病院の歴



少数精鋭の医局員



生医研発足時
最初の教授会の後で
職員一同と記念撮影

史については、九大病院百年史のなかで詳しく書いていますので省略します。

私の在任中、生体防御医学研究所への改組も含め当時の教授連中は何を考え、何を悩んでいたかを反省と共に書いてみます。

最も頭を悩ましたのは、温泉治療学研究所という名称です。各科とも温泉治療を主なテーマにした研究をしなければならないのか、とくに外科・産婦人科という手術系の部門が最も悩みが深刻だったと思う。

当時九大整形外科の天児教授にはお会いする毎に君の所は外科よりも整形外科が必要ではないか。君なら新設出来るだろうと言われ、なるべく会わないように逃げ廻っていた。現在診療部門が新設され、先生も喜んでおられることでしょう。皮膚泌尿器は泌尿器をなくし、皮膚科の診療だけにした当時は皮膚病の治療に温泉を訪れる人は多くとくに難治な乾癬患者が多かった。次第に有名になり、全国の大学や皮膚科専門医から患者が送られてきた。世界の著名な皮膚科学者が日本の学会に参加したあと、見学に訪れるようになった。

病院の現制を緩和し、院内の治療だけでなく、明礬温泉などにバスで行って入浴を続けたり、

治療庭園などで裸で日光浴などを行った。そして浴と光線治療を併用した治療法を開発し現在でも有力な治療法となっている。そこで全国の大学や主要な病院に御願ひして患者の実態を把握するために疫学調査を行った。退官前に第1回の日本乾癬学会を城島高原ホテルで開催した。現在では32回となっているが規模が大きくなり過ぎて盛大になったかもしれないが、夏休みに保養所などに合宿しながら同好の士が討論しようという私の意図から遠く離れ出した気がする。その後私が退官してから、皮膚科の部門は無くなった。世間の評価の厳しさを改めて痛感した。私の力不足で全責任は私にある。教室員や患者の皆様にご心からお詫び申し上げます。しかし私の信念は今でも間違っていたとは思っていない。失敗を恐れては何も出来ない。

現在堀内教授を委員長とする「別府病院再開発ワーキンググループ」が発足しているようだしチャレンジ精神が大事だといわれている。単なる分院であってはならない。

なぜ別府なのか。

風光明媚な環境や温泉を生かした世界に一つだけの独特な療養病院で、各国の医療団が視察にくるようなホスピタルを目指してほしい。

藤吉乳腺クリニック

院長 藤吉 健児 先生



藤吉乳腺クリニック



当院のスタッフ

初めてお目にかかる先生方もいらっしゃるかもしれません。平成20年5月に九大別府病院正門前から一直線の場所に開院した、乳腺専門のクリニックです。

院長自身は九大本院にほど近い高校（福岡高校）の出身ではありますが、大分医科大学（現大分大学医学部）入学後、ずっと大分に住み着きましたので、九大医学部や九大別府病院とは関連はありませんでした。しかし当地に開院後、ベッドフリーの当院では手術は行えないにもかかわらず、当院で発見された乳がん患者さんからの執刀希望があることから、外科の三森教授の御厚意に甘え、九大別府病院で乳腺疾患の手術をさせていただけることとなりました。平成28年度は当院で発見された乳がん症例33件の手術を、外科の増田先生、林先生、麻酔科の崎村先生、放射線科の寺嶋先生などのお力添えをいただきながら、施行させていただきました。癌研究会附属病院乳腺外科で手術を学びましたので、腋窩郭清などの手技をみっちりと仕込まれたのですが、当時と比べ、特に腋窩リンパ節郭清などにおいて縮小化の波が大きい現在ですので、2002年ごろより力を入れている色素法によるセンチネルリンパ節生検による手

術侵襲の軽減にも努めています。

当院は外来専門で、マンモグラフィやエコーといった、乳房の検査に力を注いでいます。手術侵襲の軽減のためには、やはり早期発見早期治療は重要です。かつ、著名人の乳がん罹患の報などに触れる機会も増え、検診や検査の希望も増える中で、少しでも待ち時間の少ない完全予約制の検査体制を築き上げることを目的の一つとして、当院を開院いたしました。検診希望の方や、検診から精密検査となる方は、受診者本人が思うほど怖い病気ではないことも多いため、もっと緊張せずに検査を受けられるように、いかにも病院然とした作りではなく、知り合いの家に遊びに行くような感覚で検査に来られるような、そういう雰囲気づくりを心掛けています。幸い地域の方々にご信頼いただき、昨年度はマンモグラフィが約3000件、超音波検査が約4500件、となりました。完全予約制とすることで、院内での待ち時間が少なくできる半面、少々予約が取れる日まで日数をいただくこともありますがお急ぎの場合は可能な限り対応いたしますのでご連絡ください。また、診断に悩む症例については、MRIやCTなど、放射線科の平川先生、坂本先生に大変お世話になっております。ま

◆DATA

住 所: 別府市東莊園4-2

電 話: フリーダイヤル 0120-76-6029

所属学会: 日本外科学会、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会
日本乳癌甲状腺超音波医学会

資 格: 日本乳癌学会専門医
日本乳癌検診学会評議員
マンモグラフィ精度管理中央委員会読影委員

診療科目: 乳腺外科、外科

◆アクセスMAP



た、組織検査としては、本年から超音波ガイド下吸引補助針生検 (VAB) も導入し、かなりの病態に対応できるようになりました。

臨床の一方で、院長は、日本検診マンモグラフィ精度管理中央委員会 (現在は日本乳がん検診精度管理中央機構と名称変更) のマンモグラフィ読影委員を拝命している九州では3名の委員の一人であり、検診マンモグラフィの読影医を育成する講習会のための活動も行っています。その教材や資料作成において、画像と病理の対比などのため、病理の東保先生を始め、検査室のスタッフの皆様にも、なにかと多く注文をつけさせていただいておりますが、いつも快く引き受けてくださり、感謝しております。

当院では、手術後の補助療法としてや、術後の再発をきたした場合の化学療法についても、患者さんの希望があれば、当院で行っております。化学療法室には2台のリクライニングベッドを備え、ゆったりした雰囲気の中で化学療法を受けられるようにしています。進行し通院が難しくなってきたと

きに、入院できる体制での化学療法を増田先生や林先生が快く引き受けてくださることもあり、患者さんの希望にできるだけ添えるような形での薬物療法を行うことができます。

乳腺専門のクリニックであり、乳腺の診断に全力を注いでおります。その一方で、当院かかりつけの方が乳腺以外の疾患に罹った時、九大別府病院初め、他の先生方にお世話になることもあると思いますが、何卒よろしくお願いいたします。



クリニック待合室(上)
と化学療法室(右)



当院へご紹介いただいている先生方の「紹介元の医療機関のご紹介」を掲載しています。広報誌は、県内の医療機関 (病院・医院・クリニック)、九州大学病院本院 (福岡)、別府市内の施設関係等に配布しております。掲載をご希望の医療機関は、地域医療連携室 (0977-27-2055) までご連絡いただけますようお願いいたします。

(地域医療連携室長 平川 雅和)

九州大学病院別府病院 外来診療案内

(平成29年5月1日現在)

科名	診療区分	月	火	水	木	金
内科	リウマチ・膠原病	堀内孝彦 木本泰孝	堀内孝彦 押領司大助 塩沢俊一	木本泰孝 吉村元樹 塩沢俊一	病棟回診日	堀内孝彦 木本泰孝 押領司大助
	糖尿病	井林雄太	—————	—————		井林雄太
	血液病	—————	伊藤能清	伊藤能清		伊藤能清
	がん・腫瘍	田村真吾	田村真吾	—————		—————
	消化器	田村真吾	田村真吾	—————		—————
	慢性疼痛	—————	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹(再来)	—————
	骨粗鬆症	—————	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹(再来)	—————
	循環器病一般	樋口義洋	樋口義洋	樋口義洋	得能智武	得能智武
	心不全・肺高血圧外来	得能智武	得能智武	午後 心血管カテーテル 検査・治療日	午後 心血管カテーテル 検査・治療日 (予備日)	
	血管疾患外来					
	睡眠時無呼吸外来					
外科	一般消化器門	三森功士 江口英利 伊藤修平	手術日	三森功士 伊藤修平 黒田陽介 林直樹	手術日	三森功士 江口英利 黒田陽介
	肝・胆・膵	江口英利		黒田陽介		江口英利 黒田陽介
	乳腺	三森功士 増田隆明		三森功士 増田隆明		三森功士 増田隆明
整形外科	脊椎外科 (全予約制)	手術日	東野修 飯田圭一郎 樽角清志 甲斐一宏	手術日	播広谷勝三 東野修 飯田圭一郎 樽角清志	播広谷勝三
放射線科	放射線治療	松本圭司	松本圭司	—————	松本圭司	—————
	放射線画像診断	平川雅和	坂本勝美	平川雅和	平川雅和	平川雅和
共通	上部消化器内視鏡	江口／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	田村／江口
	下部消化器内視鏡	坂本／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	田村／坂本
	EMR/ESD	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美
	ERCP	—————	—————	—————	—————	—————
	セカンドオピニオン	要 予 約				

※担当医は変更となる場合がありますのでご了承ください。

初診・再診の受付時間 8:30～12:00 ・整形一完全予約制・地域医療連携室へ要Tel ・放射線治療一初診 8:30～11:00

※但し土日、祝日は休診(急患は除く) 代表電話:0977-27-1600、地域医療連携室:フリーダイヤル:0120-272-518、直通:0977-27-2055

地域医療
連携室より問合せ先
ご案内

◆CT・MR・骨密度・内視鏡検査のご依頼

放射線科受付 0977-27-1722(直通)

- ・検査依頼は、電話にて受け付けております。
依頼検査優先時間帯を設けています。
- ・結果は、CDデータ、報告書とともに、ご依頼いただきました先生方へ迅速にお返事いたします。

◆放射線治療のご依頼

地域医療連携室 0120-272-518(専用)
0977-27-2055

- ・乳癌、食道癌、肺癌、前立腺癌、悪性リンパ腫、癌性疼痛に対する緩和治療、その他の悪性腫瘍についてはご相談ください。
- ・放射線治療の診療は、事前に連絡をいただければ、待ち時間が少なくなるよう配慮させていただきます。

その他、外来・入院に関する
お問い合わせ月～金 8:30～17:00 ☎0120-272-518(専用)
TEL:0977-27-2055(直通) FAX:0977-27-3008(24時間受信可)

九大別府病院だより Vol.18



九州大学病院別府病院

Kyushu University Beppu Hospital

〒874-0838 別府市大字鶴見字鶴見原 4546 番地
代表 TEL 0977-27-1600
URL <http://www.beppu.kyushu-u.ac.jp/>